＜図書館企画展予告＞

住吉広行「春冬堂上放鷹之図」屏風
～下絵からよみがえる、朝鮮王朝への贈りもの～

この春に開催する企画展のメインとなる「春冬堂上放鷹之図」（チ 4　1471）は、江戸幕府が御用絵師の住吉広行に、第 12 回朝鮮通信使（1811 年）への「贈朝屏風」として依頼し、春と冬の鷹狩の様子が描かれています。今回展示するのは当館が所蔵する春図の下絵ですが、朝鮮王朝に贈られた完成品の屏風と、下絵の冬図は失われています。

江戸幕府と朝鮮王朝との交流については、ユネスコが 2017 年に《朝鮮通信使に関する記録》を「世界の記憶」に登録するほど注目されています。しかし 12 回にわたり贈った二百双近くの屏風と、絵師のもとにあったであろう下絵の多くが失われているため、この春図下絵は朝鮮王朝へ贈るための背景や想いを知るうえで貴重な資料です。

本図は、和紙をつなぎ合わせ 176 × 446 cm にした大判の一枚紙のため、開いて全体を細かく見ることが難しいうえに劣化の恐れもあります。そこで公開と保存の両立のため高精細スキャナーによる撮影を行なったところ、画像からは完成図が想像できそうなほど色・材質の指示書きや修正の様子などが事細かに見られました。加えて住吉広行による本屏風制作の記録である「御屏風之記」（宮内庁書陵部所蔵）には、冬図の構成も記されています。

本展では春図下絵を全面公開するとともに、高精細画像から得られた情報と制作当時の関連資料から現代の手法で再現する試み、そして幕府と朝鮮王朝との外交などを紹介します。表紙画像は下絵のほんの一部分ですが、実際の大きさは展示室で、細かい描きこみはオンライン上で公開する高精細画像でぜひご覧ください。

山本　さぎり（資料管理課／展示委員会）

▼展示概要

住吉広行「春冬堂上放鷹之図」屏風　～下絵からよみがえる、朝鮮王朝への贈りもの～
会期・時間：2024 年 3 月 22 日（金）～ 4 月 30 日（火）※日曜閉室
10 時～ 18 時
※ 3 月 23 日（土）・3 月 30 日（土）・4 月 6 日（土）は 17 時閉室
場所：早稲田大学総合学術情報センター 2 階展示室
開室日・変則日等の詳細は、図書館 Web サイトをご確認ください。

「春冬堂上放鷹之図」の高精細（IIIF）画像を右の QR コードよりご覧いただけます。
*IIIF 化に際し、一般財団法人人文情報学研究所　主席研究員　永崎研宣氏のご尽力をいただきました。

文化資源データベース

［目　次］

P2　＜図書館企画展予告＞
住吉広行「春冬堂上放鷹之図」屏風　～下絵からよみがえる、朝鮮王朝への贈りもの～
山本　さぎり（資料管理課／展示委員会）

P3　キャンパス間の学内図書取り寄せサービス拡大について
可児　千裕（利用者支援課）

P4　＜図書館企画展開催報告＞蔵書票、蔵書印、書き込み：図書館に遺された所有の証
岡本　諒子（高田早苗記念研究図書館担当課／展示委員会）

P6　Library Week イベント「図書館交信ポスト」
小西　由利子・本木　洋子・笠井　絹子（利用者支援課）

P8　各図書館の LA（ラーニング・アシスタント）活動
可児　千裕・蓮沼　明子（利用者支援課）
今村　昭一（理工学図書館担当課）・御園　和之（所沢図書館担当課）

P10　＜新収資料紹介＞小泉八雲書簡：高田早苗宛
中里　潔人（情報管理課兼資料管理課）

P12　ポストコロナの早稲田大学中央図書館における展示について
株式会社早稲田大学アカデミックソリューション
学術リテラシー事業部　図書館セントラルチーム

P14　＜早稲田の本棚から＞ビジネス界のバイブル『論語と算盤』―正しい「金儲け」とは―
中嶋　更紗（利用者支援課）

P15　～図書館だより～
＜ Pulsus ＞図書館の電子資料
小林　和夫（早稲田大学図書館副館長）
＜図書館日誌：2023 年 9 月～ 2024 年 1 月＞
＜ライブラリー・ウィークのご案内＞